

# マージン（長期・年間）の単位について

電力広域的運営推進機関  
平成28年2月1日

マージンの値の考え方については、送配電等業務指針に規定されているが、現状、算定した**マージン（長期・年間）の丸め方が統一されていない**ため、統一化を図る。

（現状の丸め方）

10万kW単位で繰上げ（東京・関西）、5万kW単位で繰上げ（東北・中部・中国）、1万kW単位で繰上げ（北海道）

## ■送配電等業務指針（抜粋）

（マージンの値）

第170条 マージンの値は、原則として、各供給区域における持続的な需要変動及び偶発的な需給変動に対応するために必要な電源の容量（以下「必要予備力」という。）のうち融通期待量を各供給区域に接続する連系線に配分して、算出する。

2 本機関は、長期計画において各連系線に確保するマージンの値及び確保すべき理由を公表する。

3 融通期待量は、当面の間、各供給区域の系統容量の3パーセントに相当する電力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域内の電源のうち、出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は、当該供給量を控除した値とする。）が故障等により失われた場合にも電力系統を安定に維持できる電力とし、本機関は、継続的に適切な融通期待量について検討を進める。

## 2. マージン（長期・年間）の単位について①

1MW単位、10MW単位及び50MW単位とする場合を比較検討

### 《比較検討表》

	項目	1 MW (0.1万kW)	10MW (1万kW)	50MW (5万kW)	備 考
運用面	月間 マージン	×	○	△	✓ 月間マージン減少算出における丸めは「1万kW」単位
	想定需 要単位	×	○※	△	✓ 供給計画の需要想定は「万kW」単位を使用 ※ 系統容量の3%確保会社のうち、系統規模の小さいエリアにおける各月最大需要の最低値は約770万kWであり、系統容量×3%は約23万kW程度とマージンは少なくとも2桁の値（万kW）となる。このため、マージンを1万kW単位とすることも選択肢となりうる（過大単位となっていない）。
連系線 利用面	混雑処 理対応	×	△	○	✓ 丸め単位が大きくなる程、混雑処理対応の確率減
	空容量	○	△	×	✓ 丸め単位が細かい程、空容量が増加
総合評価		×	○	△	

### 《評 価》

#### 【運用面】

- マージン（月間）が10MW単位であり、マージン（長期・年間）も平仄を合わせることで誤認・入力ミス等のリスクが低くなる。
- 10MW単位とする場合、マージン算出の基となる想定需要の単位と平仄が合い、算出面での対応が容易となる。

以上の事から、運用面では10MW単位とすることが有効

#### 【連系線利用面】

- 1MW単位とする場合、需要増に伴うマージン見直し（増加）による、混雑処理の可能性が高くなる。
- 50MW単位とする場合、マージン値が大きくなり、空容量が減少する。

以上の事から、連系線利用面では10MW単位とすることが有効

#### 【総合評価】

- 上記、【運用面】・【連系線利用面】双方について総合的に評価し、10MW単位にすることが適当